

## 小児科だより vol.3

### 『うちの子はインフルエンザのワクチンうったほうが良いですか？』

2016.11.1 発行

こんにちは。いよいよ静岡でも冬を感じる季節になって参りました。この時期になると、『インフルエンザワクチンうったほうがいいの？』と聞かれることが多くなります。そこで今回の小児科だよりは、インフルエンザワクチンについて書いてみました。ワクチン接種の可否に関しては様々な考え方やご意見があるかと思いますが、参考にしていただければ幸いです。



インフルエンザウイルスは変異が早いウイルスのため、国立感染症研究所での検討を踏まえ、シーズン毎に接種するワクチン株の内容が変更されています。加えてインフルエンザワクチン接種後の抗体陽性率は他のワクチンと比べると低く、抗体価は半年で約半分に低下することから、**毎年流行前に接種**するよう勧められています。流行のピークは**12月から2月頃**であることから、当院でもすでに今シーズンのワクチン接種を開始しております。

感染予防効果に関しては、厚生労働省などが行った6歳未満児を対象とした過去の調査での有効率は**22~25%**でした。(6歳以上の小児では**24~40%**、成人では**70~90%**、65歳以上の高齢者では**34~55%**)ここで注意しなければならないことは、『有効率**25%**』という表現は**100人の接種者のうち25人は発症しない**という意味ではなく、ワクチンを接種せずに発症した人のうち**25%は、接種していれば発症を回避出来た**という意味です。また、このように大規模な研究の限界ではありますが、結果指標(発症)をインフルエンザ流行期における発熱と定義しているため、すべての原因がインフルエンザウイルスとは限らず(インフルエンザ以外の原因による発熱も発症に含んでいる可能性がある)、有効率はもっと高い可能性があるとも言えます。さらにこの調査を行った数年後(2011/2012シーズン)からわが国の**13歳未満の小児**に対するワクチンの接種量が、WHO(世界保健機関)推奨量に増量されたこともあり、今後は以前の報告より有効率が上がる可能性があります。

少し話がわかりづらくなってしまいましたが、具体的には**1歳未満のお子さん**へのインフルエンザワクチン接種に関してはその効果ははっきりしていないため、お子さんの感染予防のために、同居している**家族へのインフルエンザワクチン接種をお勧め**しています。また**1歳以上で保育園や幼稚園に通っているお子さん**に関しては接種をお勧めさせていただいています。詳しい年齢別の接種間隔や回数に関しては、接種時などに直接ご質問をいただくか、小児科だより内のリンクをご参照ください。